

ハマグリプロジェクト成果報告

二枚貝の効率的な増養殖を目指すプロジェクト「環境変化に対応した砂泥域二枚貝類の増養殖生産システムの開発」(2009～2011年)がこの春終了しました。

当センターの逸見教授は、このプロジェクトでハマグリを担当し、干潟漁場、養殖筏、素堀池で、ハマグリ成長と生残を比較しました。なお、養殖筏は、真珠養殖場跡地の海面下に砂とハマグリを入れたカゴを垂下しました(垂下飼育)。一方、干潟漁場と素堀池(クルマエビ養殖場跡地)では、潮間帯に金属籠を設置して、その中でハマグリを飼育しました。

実験の結果、垂下飼育が最も成長が速く、身入りもよいが、8～9月の死亡率が高いこと。素堀池は成長は遅いが、生残率が非常に高いことがわかりました。

熊本県は日本一のハマグリ生産県ですが、

小さなハマグリが単価の安い夏場に出荷されるなど、資源管理や出荷調整への取り組みが不十分です。養殖筏と素堀池での養殖・畜養を季節的に組み合わせれば、より大きく身入りのよいハマグリを出荷することが可能になると思われます。また、これらの養殖法は、現在使われていない真珠養殖筏や車海老養殖場の有効利用にも役立つものです。



クルマエビ養殖場跡地

青島海洋地質研究所との学術交流を深めています

沿岸域センターでは、国内との共同研究は勿論のこと、海外との共同研究も積極的に取り組んでいます。特に、中国とは北京大学と青島海洋地質研究所との研究交流を深めています。この一環として、平成23年12月に青島海洋地質研究所(QIMG)から3名の研究者を招聘して、学術研究の交流を深めています。青島海洋地質研究所はその前身が南京で1964年に設立され、1979年に青島に移設・拡充された歴史ある研究所で、研究職員が約230名、研究分野は海洋地質・水質観測、海洋油田・ガス資源、海洋環境保全、海洋地質工学など7つの部署から構成されている大きな研究所です。今回の研究交流は、Siyuan

Ye 教授(専門:地球化学)と Ping Ying 教授(専門:海洋地質学)が12月16～23日の1週間滞在、また Hongming Yuan 助教(専門:海洋環境地質学)が12月16日～1月30日の45日間の滞在でした。滞在中は、互いの研究内容の意見交換とともに、有明海・八代海の干潟再生事業、合津マリンステーション、環境省国立水保病総合研究センター等々の視察を行いました。海域環境の再生方策、海域環境汚染物質の除去、観測データの分析・解析手法などを中心として、今後の学術交流が期待され、共同研究協定の締結に向けて検討を開始しております。



研究の意見交換



合津マリンステーションの見学



懇親会の様子